

母と話して気付いた税金の話

名古屋市立一柳中学校3年 坂本 若菜

コロナウイルスの影響で日本経済は大きな打撃を受けています。特別給付金やG o T oキャンペーンなど新しい政策が行われていますが、それらは全て税金が財源になっています。しかし、現在の状況や今後の影響を考えると財源が減って困っていると思うので、必要な財源を確保する為に新しい税を考えてみました。

私が提案したいのは、コロナウイルス対策の為に「移動税」です。その税は県をまたぐ電車や飛行機などの交通費や高速代、ホテルでの宿泊代などに課税するものです。集めた税収は地方の医療対策に使用します。

移動手段に課税することで、移動する人を減らしウイルスの拡散を抑える効果と医療体制が整っていない地方医療を支える事が出来るのではないかと考えました。

そう母に話しをしたら、「移動税を導入したら旅行する人が減少し、ただでさえ観光客が減って苦しんでいる観光地は更に追い打ちを掛けられる事にならないかな。それに移動するのは観光客だけでなくて運送業者も関係するよね。その分運賃が値上がりし、物価の上昇で生活も苦しくなり、景気は更に悪化すると思うよ。」と言われました。

また「地方医療対策と言っても、元々医師不足の過疎地ではただ給付するだけでは意味がなくて、どうやって医療体制を構築するのか難しい問題なのよ。」とも教えてもらいました。私は大都市に生まれたので今まで医療体制に不安を感じた事はありません。だから母の話聞いて初めてその地方の状況に合わせた税金の使い方が必要なのだと気付きました。

母と一緒に考えてみた地方医療対策の一例は、効果が出るまで時間は掛かりますが、医師や看護師を目指す優秀な学生に奨学金を出して、その代わりとして一定期間その地方で働いてくれる人を育てるというものです。また進化している遠隔医療システムなど最新の医療機器を導入するための助成金を出すのも一つのアイデアなかなと思います。医療体制が整えば安心して出産も子育てもできます。それによって過疎化を少しでも食い止める事にも繋がるのではないかなと思います。

母と話して、新しい税金を作る事は、対象や税率、徴収のやり方や使い道など難しい問題がたくさんあるのだなと改めて気付きました。

税金は人々が豊かで安心して暮らす為の大切なものです。ただ集めて使えば良いという訳ではなく、様々な問題を解決しつつ経済を循環していく使い方が重要です。だから税金を扱う仕事はとても責任が重いですが、その分やりがいも大きいと思います。

私は将来税金の仕組みを考えるような仕事や、税金と関わる仕事に就きたいです。その為にも、今後の政策がどの様になるか注目しつつ、ニュースを多角的な視点で捉えられる様になりたいです。